

2023 年度数理情報履修モデル

自己点検・評価報告書

1. 昨年度の自己点検結果を踏まえた今年度の取り組み

今年度も 2022 年度に引き続き、共通必修科目「数理情報概論」の内容を見直し、基礎的な項目に関する解説を更に手厚くすることを心がけた。

前年度（2022 年度）の学生アンケートでは「授業で新しい知識や考え方を得ることができた」との回答が全体の 92.9%を占めており、例年どおり、学生自身も学習成果があったことを実感していることが分かった。授業の満足度については 5 段階評価（満足・やや満足・普通・やや不満・不満）のうち上位ふたつ（満足・やや満足）の占める割合が 63.5%であり、下位ふたつ（やや不満・不満）は 15.8%であった。不満な点としては授業内容の水準を挙げた学生が多く、水準に関して否定的な回答の占める割合は 29.3%であった。2023 年度は講義内容に大きな変更を加えることなく、基礎的な事項の解説に重きを置くことにより授業の水準に関する不満を減らし、学生の満足度の更なる改善を目指した。

2. 教育プログラムの履修・修得状況、学習成果について

今年度（2023 年度）の科目「数理情報概論」の受講登録者数は 1052 名で、単位修得者は 856 名であった。単位修得者の割合は 81.4%であった。また、2020 年度入学者のうち、本学の数理情報履修モデル各コースを修了して 2023 年度に卒業した学生の人数及び卒業者に占める修了者の割合は次のとおりである。

学生所属	2023 年度 卒業生数	認定者数		
		数理情報 ベースコース	数理情報 スタンダード コース	数理情報 アドバンスト コース
生命・応用化学科	191 人	191 人 (100%)	191 人 (100%)	0 人 (0%)
物理工学科	85 人	85 人 (100%)	60 人 (70.6%)	2 人 (2.4%)
電気・機械工学科	181 人	181 人 (100%)	181 人 (100%)	1 人 (0.6%)
情報工学科	129 人	128 人 (99.2%)	128 人 (99.2%)	128 人 (99.2%)
社会工学科	131 人	119 人 (90.8%)	84 人 (64.1%)	8 人 (6.1%)
創造工学教育課程	86 人	83 人 (96.5%)	62 人 (72.1%)	22 人 (25.6%)
合 計	803 人	787 人 (98.0%)	706 人 (87.9%)	161 人 (20.0%)

3. 学生アンケート等を通じた、学生の内容の理解度・他の学生への推奨度について

本講義は全学科共通に開講する必修科目である。2023 年度の授業後に実施したアンケートの集計結果（別紙）によると、「授業で新しい知識や考え方を得ることができた」との回答は 93.2%を占めており、昨年度までと同定度であり、依然として高い割合を占めている。

授業の満足度については 5 段階評価（満足・やや満足・普通・やや不満・不満）のうち上位ふたつ（満足・やや満足）の占める割合は 64.6%であり、下位ふたつ（やや不満・不満）は 14.6%であり、2022 年度と比べると改善基調ではあるが、ほぼ同水準であった。授業内容の水準については、否定的な回答（どちらかと言えばいいえ・いいえ）の占める割合が 2022 年度の 29.3%から 21.8%に減少した。授業内容の大幅な変更は行わなかったが、解説の力点を修正・工夫することにより内容の水準に関する不満は減少した。

4.改善への取組

2024 年度には次の事柄に取り組む。

- ✓ 実社会とデータ駆動型で構築する AI との関わりについて、学科ごとに適した用例を用いて説明するなどの工夫をする（継続）。
- ✓ 生成系 AI に関する講義内容を 2024 年度中に決定し 2025 年度から展開する。
- ✓ 水準に関する不満の減少と比べて授業への否定的な回答の減少率が小さかった。講義担当教員全員による FD を継続する。

5. 全学的な履修者数・履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

数理情報概論は必修科目であり、本学を卒業する学生は例外なく全員が本科目の単位を修得する。個々の学生がデータサイエンス分野に、より強く積極的な関心を持てるように、学生アンケートなどを通じて自己点検を今後も行い、授業内容の改善を継続する。